

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 27 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2012 年 11 月 6 日 (火) 13:30~17:00
2. 場 所 第 5 東洋海事ビル (新橋) AB 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 三山 (幹事), 広木, 矢野, 下家,
猿渡, 臼井, 上坂, 萬年, 入佐 (大城戸代理), 木谷, 山田, 新井,
皆川, 一森, 松浦 (18 名)
(欠席委員) 大木, 橘高, 望月, 遊佐 (4 名)
(常時参加者) 舘, 田畑, 本田, 本間, 中川
(傍聴者) 大高, 檜田, 武田, 佐藤, 伊藤, 中野
4. 配布資料
資料P14SC-27-1 第26回PLM分科会議事録案
P14SC-27-2 人事案
P14SC-27-3 本格改定の課題整理表
P14SC-27-4 PLM実施基準の改定案
P14SC-27-5-1 経年劣化メカニズムまとめ表の確認状況
P14SC-27-5-2 耐震安全性評価の実施方法の改定方針
P14SC-27-5-3-B BWRの経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の意見対応案
P14SC-27-5-3-P PWRの経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の意見対応案
P14SC-27-5-4 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の気付き事項対応案
P14SC-27-5-5 経年劣化メカニズムまとめ表 (追補2) の正誤表案
P14SC-27-5-6 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版の変更点一覧表案
P14SC-27-5-7 経年劣化メカニズムまとめ表の改定方法の変更案
P14SC-27-5-8 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版の意見対応案
P14SC-27-5-9 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版案
P14SC-27-5-10 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版案
P14SC-27-6 PLM実施基準本格改定の概要
P14SC-27-7 PLM実施基準本格改定の専門部会への概要報告案
P14SC-27-8 PLM実施基準本格改定のスケジュール
P14SC-27-9 LBB評価検討会への要望事項 (提案)
(経年劣化メカニズムまとめ表案P14SC-27-5-9,10は、チューブファイルで回覧。)

5. 議事

会議に先立ち、出席委員は18名で、定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-27-1)

幹事より、第26回PLM分科会議事録(案)が紹介され、承認された。

(2) 人事 (P14SC-27-2)

・委員の退任

主査より、西山委員の退任が報告された。

・委員の新任

新委員として東京電力の上坂氏が推薦されている旨説明され、審議の結果新委員として選任された。

・常時参加登録の承認

日本エヌ・ユー・エスの本間氏から常時参加登録の希望がある旨紹介があり、審議の結果常時参加が承認された。

(3) PLM実施基準の改定案 (P1SC-27-4)

・C.7電気・計装品の絶縁低下及び特性変化

ACA研究成果に関して解説として反映する案について確認された。

・C.6フレット疲労

健全性評価の妥当性確認のため保全活動の計画・実施を確認することを本文及び解説に記載する案、 10^8 を超えるデータの拡充について解説に記載する案について確認された。なお、解説図C.6.2中に△の凡例を加えることとなった。

・C.5熱時効

解説C-5-2については、維持規格と高経年化技術評価の技術的観点の相違を考慮した修正を加えることになり、文案を新井委員が作成することとなった。

解説C-5-5評価用初期欠陥の考え方について、これまでのPLM評価結果だけではなく、国の高経年化に関する基本的な考え方(平成8年)を踏まえ評価を行っていることなど補足できないか検討することとなった。

・附属書D

解説D.A-4中の床応答スペクトルに基づく方法のフローはスタートから断面係数比、応力係数比の算出までが必要なので、追加することとなった。

解説図D.1等で電気・計装品の絶縁低下及び特性変化と記載があるが、特性変化の中に絶縁低下も含まれるため、電気・計装品の絶縁低下及びその他の特性変化とした方が良いのではないかという意見があり、検討することとなった。

(4) 経年劣化メカニズムまとめ表の確認状況 (P14SC-27-5-1)

幹事より耐震安全性評価の実施方法の改訂方針(P14SC-27-5-2)の耐震■の理由、高経年化技術評価不要の理由確認の継続を依頼した。

詳細版の気付き事項対応案(P14SC-27-5-4)について、対応案について確認された。

経年劣化メカニズムまとめ表（追補2）の正誤表案（P14SC-27-5-5）は学会のHPに掲載することとなった。

(5) PLM実施基準本格改定の概要（P14SC-27-6）

システム安全専門部会長への事前説明の中で本格改定の概要について以下のような意見があり、対応案を検討することとなった。

A. 評価対象機器の見直し

来年1月に新規制の骨子ができ、7月ごろに確定する見通しで、来年4月にシビアアクシデント時に必要な機器が確定する予定であるため、それらを踏まえて決める必要があるのではないかと。

規格案本文にある緊急安全対策に必要な設備についても、上述のシビアアクシデント時に必要な設備に含まれるものである。新規制の状況を踏まえ、明確に記載できるものを規格案本文とし、深層防護観点から評価対象機器に抜けないことなどの考え方を解説で書くことで修正案を検討することとなった。

B. 評価対象期間の考え方

修正案の文中に「再評価」が2回出てくるが、後の方は「次の再評価」であるため修正する。

C. 長期停止中のプラントの技術評価

再起動という言葉を使うと高経年化技術評価が再起動の条件として捉えられかねないため、表現を変えた方がよい。

評価対象期間はB. 評価対象期間の考え方で読める。再起動時の評価は本文中の箇条9の評価の前提条件が変更された場合に該当するため、それらを読み込むようにすればよい。

コメントを踏まえて修正案を検討することとなった。

(6) LBB評価検討会への要望事項（提案）（P14SC-27-9）

上坂委員より機械学会のLBB評価検討会に対してSCC評価の仕方に関してPLM分科会名で要望を出したいという意見が出た。機械学会が動きやすくなるよう原子力関連学協会規格類協議会での依頼も視野に入れて事前調整を行い、PLM分科会でもどのような要望を出すか議論した上で依頼することとなった。

7. 今後のスケジュール等

次回分科会は1月末～2月初旬に開催されることとなり、メールにて日程調整することとなった。

以上